

朝鮮に渡る橋が1本あるだけだったところには、ビルが立ち並び観光地のようになったし、琿春市のロシア国境に近い平原には農地をつぶして工業団地が造成された。近代化によって朝鮮族は豊かになったが、同時に彼らの伝統的な生活文化は失われ、その結果、漢族の文化に同化しつつあるようにも見える。本報告では、9月の調査をもとにこうした実態を紹介し考察したい。

北東アジアにおける国際観光交流の現状と展望

—中日韓の国際観光交流を中心にして—

梁 春 香

(新潟産業大学人文学部)

はじめに

報告では、北東アジアに位置する中・日・韓三国の国際観光交流について、その現状および将来展望について考察する。

- 1、世界の国際観光はこの半世紀を通して、一貫して成長発展を続けており、世界の観光産業はいまや世界最大の産業のひとつになっている。このことは北東アジアにおける国際観光交流の現状を理解し、将来を展望する上では重要であることを論じた。
- 2、中・日・韓の国際観光が世界観光に占める位置を論じた。世界の国際観光は発展の一途をたどっているが、その中で、東アジア・太平洋地域の国際観光が占める比重の増大が注目される。すなわち、これを到着人数で見れば1986年の構成比10%が1995年には15%になっており、また観光収入では1986年の構成比12%が19%になっている。こうした増加傾向が見られる地域は、世界全体で東アジア・太平洋地域だけで、中で中・日・韓三国の占める割合が大きい。
- 3、中・日・韓三国の観光交流の相互依存性を論じた。第二次世界大戦後、中・日・韓三国はそれぞれ異なる社会発展の過程を経てきており、観光発展の段階も異なっている。一般国民の海外旅行に関しては、日本は1964年に、韓国は1989年に自由化された。中国は1983年から「旅行を目的とする出国」を認めるようになってきているが、まだ初期の段階で、完全な自由化になっていないのが現状である。にもかかわらず、中国の外国旅行市場は急速な発展をみせており、1995年の出国人数は対前年比21.1%増の452万人である。また、とくに指摘しておきたいことは三国の観光市場の相互依存性が高まっていることで、中国から、日本、韓国への旅行者も増加の傾向にある一方、日本は中国と韓国の国際観光主要市場に、韓国は日本の国際観光主要市場になっている。こうした観光市場における相互依存性は、三国の国際観光交流関係が、新しい歴史の段階に入ろうとしていることを示唆するものであることを指摘しておきたい。
- 4、今後の展望と課題を論じた。市場経済の導入により、中国の経済的成長が急速にたかまってきたこと、中・日・韓三国は相互に地理的に接近していること、また、この三国は適當の文化

的類似性と異質性を持っていることなどを考慮すると、21世紀初頭には「中・日・韓による北東地域の国際交流圏」を構想することも可能性であると筆者は考えている。そのためには、三国の国際観光振興協力体制を作ることが必要であり、これまで国別に行われていた観光宣伝活動を共同で行うことも考えられるし、地域内国際観光周遊ルートを開発して、観光目的地としての吸引力を強化する、などの方策も考えられよう。

しかし、それと同時に、下記のように、解決すべき課題も多い。

- (1) 全体の課題では観光市場調査による三国国民の観光ニーズの類似性と異質性の把握、それに基づく観光政策と計画の策定、観光交流の社会環境作りなどがあげられる。
- (2) 国別の課題では三国は他の政府同レベルの観光行政機関の設立、観光政策の見直し、観光交流における不均衡の是正などが必要で、社会環境と観光地の整備、受入体制の改善、旅行業務の規範化、観光サービスの改善と向上などが急務である。

山陰地域と中国東北部との民間経済文化交流の展望

盛山正義

(株)山陰経済経営研究所

はじめに

近年、日本海は冷戦構造の終焉等により「緊張の海」から「平和の海」へと大きく変貌をとげ環日本海交流圏の形成は、日本海沿岸地域によって太平洋沿岸地域との格差の是正、国土の均衡ある発展を図り、活力ある地域振興を図っていくためには不可欠である。

これらの交流圏は、豊富な天然資源、労働力、資本、技術等を有し、それらを相互に補完し合うことにより、人、物、情報の交流を積極的に進め、当地山陰は環日本海地域の西の交流拠点として、極めて高い発展のポテンシャルを有している。

- (1) 21世紀のキーワード「参加」と「連携」である。

国際交流を推進するに当たって

- 県民意識の育成いわゆる県民の連携と県民総参加が求められる。
- 国際交流に当たって特殊な人材の確保と、異文化に対するの広報活動。
- 地方自治体の中に交流対象となる地域を研究する研究機関の設立。

(対象地域の知識をもつ人材のプールを作ること。)

- 真の国際交流を進めるには、自分の世界、自分のアイデンティティをはっきりと確立することが必要。

どのような歴史、文化圏、社会なのか「地元学」を深めることが肝要。